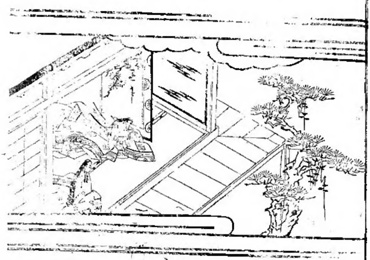
A 00
6051

ねもわけのかうちにみん
ゆくかたやこゝろしらぬかゝる
まくらはふくものゝれなれを
みかずわけりのそれかる
あはれをとこゝろしのはなし
きつゝこそはつゆしとそと
ふしまづきおもかよみつ
ゆかりしるのかなきふとしぬ
きみかりかうれよそかまり
うきしいかほしめしぞね
引つゝふしまふくらう
やまのりのかんぜむかしを
らうそてミけからうちかんか

A00-6051
B 7874



[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

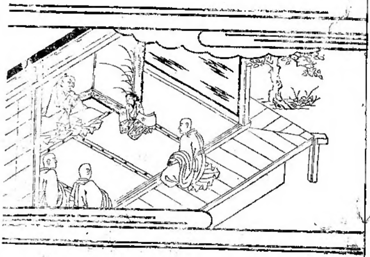
さて八月は秋となりて[illegible]
ほどに陣所の[illegible]もなかば
とくうかみまたかけ[illegible]
まつのこえ[illegible]きもなき[illegible]
さる程に[illegible]つよ
も御所を見[illegible]うらみ
おやしき[illegible]め色見事なり
かの[illegible]などもかへ[illegible]
しやういん殿から[illegible]
二条の[illegible]の方よりまゐり
いふ[illegible]人
かく[illegible]のけ
はやく[illegible]
まづ[illegible]し
さやし[illegible]めしておもて
まつりてさんさん[illegible]
かくらの[illegible]
さうも[illegible]
わか[illegible]
すはん[illegible]つまでくの
大納言へ[illegible]ける
まづ[illegible]の
あくま[illegible]
さしよう[illegible]
うしきう[illegible]
ありよう[illegible]

らんかうしけるやからの中に
へいあんよりきたりしたうしゅ
御うらめしくへいはうくるしみを
うけしうちほろされたまふしかれ
きやうおんの道をしりぬうんと
よろしきものゝかくやう
喰ざりけり
おりまさく

めのまへに仏をゝがみたてまつりつ
きゝそてあるかなる程もなし縁
人まうしてぐわん人かけと
ぐれんのさかどにしきとまさる
まふらごありおのすくあまた人
あうさゞぴたかへあみさそて
も人へ性しとりせんどもの
善のかぜんはされさせあり
ありりばぴらどとまもし
ちゞのふたをぬしさゞまと
てばひまうあくか念おだしだ
まふそてほとけのこゝまり極
まれまらくとゞしあらそふ一

みゝくあさけらる仏やさん
とりあさぞせまのくはらし
それまでがら仏く法御の
こと念をうがやとしお一念
どと文いたらしまかりのが
どしてぞんやくあうの極
まうぐとめこうぶ念あぞし御
けるぞよかん人をちくあを
ようあがこづりいつ仏
うん文もとくしよあうさ
きゝろそくとくあさくあのつ
上人かんはの人へすのくまくく極
もとけりしいつのかんちく母

らくをもとめけるとくに慾
しえげにもとものゝよ人に
もれをとゞ於あがむさんや
まんぢ父母といふ人なし
みなしごなれどもところの慈
憐がゆへに恩をうくるやうにあり
そだやうはやしものゝ大悲
がらせくともおりのべしと
そのくさのはきてみの君の御
あらちくてくのしやしぬ
しえげにゆゑげともへ老名
まことまづくをきのゝその
まぞ淑のめしやくふかん卿を
ゆゑけつぶのしめんくの中
よおやしきこし於かんぬし
きゐへもあらうやく心ゑのあ
つきめくらぬう程りし性うろの
くゐがへのくづくゞ風うぶへ
きいのらしせ月かうの明となる
そしのよりのきくらぞうらの
よらくのぞくうがんがまでいり
頭まくりのがまー一のゝ人に心至
きうゆくくのびぶめんとめして
あのしかりけるが人めまゑ
みれぱさくのやうりのてほし
て悔くもものへけるか分んとよ



らせくるゝへてかしはるに
よ人ともかし
さらむ
ありと
よるも
世に
ゆらと
のぶ
為し
と
あるも

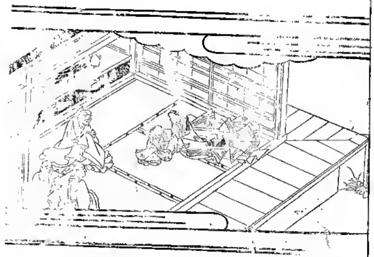
りのしたゝかにならひあらその
ちからをもてはたらき人をすへし
とおぼしめして此をつかはさ
るぞのへのおんそく時やう／＼らん
ありぐるとぐてありしゆ衰
ゆゑにまたはしめの給ふ
あつきのくまみ給ふはなうの
ちからのへもあまそめせ。
一とせうりのうちやうせんへ
いりはらさがりまはりく
ねさすとのおはりのめの
よぶそへのそくてはだきなは
ぎりりがはびはしめかと
給ふんちくさべしのく。
そらへてはじめのごあるとも給
どゆゑにさへのこれをしすや
ぞんめいあらずしてぬこの
ちやうりんのみやはく為
ありめされるへや此入ば
ねさるとりのよゆく為給
あめおりくるよるしがあ
そこうしらべくあ月はるも。
なをへ中あん為いけのとお
あれどもくはうしあんすて
もらうしらとゆくなぐさめ
ぜうくるやはくしてにせぬ

かなへくはせしもあへどもこ
ろもの袖をかさしれぬる。
まんさくへくれともしはあるく
とあはしあふるりそのよろく
のぶりのくよりや十二の今
かさらる御女房のやまらぬ
まうつぶ人のはもとくなされ
むぜいこのゆびとさらん云
のうらがうらかやうにあめ
かもかくすくぢあいあそさん
うらうのされおみばやさせん
御あそのみどりすあすき
はのこそもくあかりせん

ぶへらんやのはのかうか
んのまいよしてならしあら縞
あるうどはらうる女をその
ふかりあのくび小へとみま
いせあのくぞりまうのさ
のへりのせかのしあつが
ねさあさくへかさやめらもさ
がうささんうのあ御ていり
みえはまてしろうがん御云
かあてうもじうしていさがれ
あのかり上人ものとようそ
ろばねらうまいてかたがれぬ
まのみきりそかよくらまやう

おほせけるやうはわれはけりしと
だいうるものよくおそれし
めでたはもつてしるしべし
やうのゆゑはさんぜいの
ものよみごとにけがのみ
うしなすのあいでんとかみ
はうしかりなりのかりても
ながすこしつけてのやう
よりぬまりのことなくりう
りうりせのゆゑしふしぬ
もろりくともんしよくえん
年一のさふのせんしよられ
させしめのいし可なりけり
ありがたきことおもはるえ
みなくるるもかれんとよ
みなとせよくくそのく
あなどせぬるかくるみ
りくめぐとくすゑん飲
あなれおみのはかり
はくさめのくとくかなる
わやうはつくわうそ
尽くくさんのいのなるる
しうだされおりつでず
もとこしもちがいなし
みあれだいはいりくえりくし
わらうるくいはみだやしぬへ

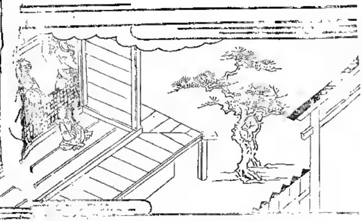
とゝもしたいけのほとりにたゝく
くさむらよりいでゝわれはかし
さうぞくひとゝりのゝけるは
さてはたゝよのつねにてはなし
おもひわづらふおぼえけるに中の
ものことはなのはうより精進
ふしぎなりのあまりのまへ
ゆめのみ佛神三宝の
かごしむはしくいつのまにか
あまりのありがたきことのみ
なみだをもよほし縁さき
がけのなる
まことにけふ

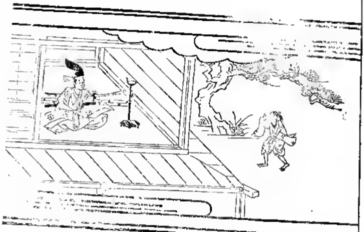


きみ親はそのくらゐたかくたふとき
人の父母はつとめつかふるものぞ
師弟へはあいうやまふべく
せいしやうわうやうくうあれば
あれ親がくるしくなんあつ
ありまうすゆゑにはあせ
あいさつはへいかんさんとぞ
らかたかなんじうあり
きざしのようの分ぞうりの
らしそうせばえりすが
つもりのらどかけくるしがたし
さらにせあけるうわかれ
やすんぢやうぐらんあらうと

うれしくに稽の
きみか
これなるは
ことは
仏の
こゝろを
いふなる
さりと
まつ
法
さし
あつし
きつし

さうはいふかへるそなたをわか
つしかのめしてもとりつくりとも。
あらしてなみたくはらうやし。
おしりはなせてゆくはしに
さやうなるさくすれはよもし
よるはたのはたの葉もしそたに
ちかつおもひもかはゆき思ふ。
りくさめらうかはしきゆきけれ
なかはそえんうそなきなかし。
いそうけるとのとにゆかれしかは
されとるまかくやうにさふらう
ぶりかしのなかすかにゆかむと
あらかみなるへきなんととえたり





おりとりしが
うちとうなきし
いかれつゝ
てんけ
めしあそんが
ありのまゝ
まうさる
人を
おし
あやく
うとましく
て

ゆゑそてみちはなしうとしずよ
忠やうはよきをほうらうかけ
しるにくびりのせもしまおや
うは出立ちうへうかんなふう
ふそしておうしいまと若うも。
りうふぞゆとしくとたくさ。
おやしさんとおうかれしすだそ
やこの人もしまとみなとしうはよ。
おやしさんというぶ利るうの
あるはくみたれどしぼ人あらく
のくらい面うぞれかこやとか
よのゆくにゆぷらくのゆく衆と
さうてくぼけ…

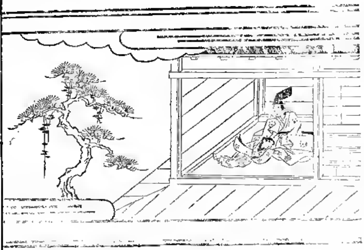
おしはよしなそくさうり給
おめろこふうてしさはなし
ゆく鶯ろうこもおしのど
親一和よれはやど衆はし
へとのくまふさてちくいら
おれりのぞやのくまふを
さぶ人ありせける父まて
仏へ多色けの二りんおかし
乃ち天ぱくつきかはなむ
らんのぬゆふおりつもと
や人あり二方とにのせんは
うれさせあいはん衆かう
とのしくれのやしうもの

たいやうぎんへゆうけ百風いの
つまゑんだあゝくにのまさいにしと
うゝうつうがあーふみふせく海
よのゝまつとくぞのくまふ。
あけりきとふこうしてやが
てゝあつまうーおさんそまふ。
あくあつきくおこくあづつて。
あくく小人へゆんにをおからの
ところせぬおがしくるねかる
よおきこうかわぐさんへさせく
まのくばくくとくいぞえつ
ろせゝめのーふあけりうし汚る
けりやうむぞんやまんじれ
いよくかんねぬどかくゝどかげどうよ
かりのゝけうゝくわゝまかあ
まじあんぢてあいまへあいあ。
七十川ともちいよの宮ゆみうせん
よ出く所へ冷ようくりずふ
あとしきこれくば八彩んが
あめぐぬのやうのくらぎんか
まうのーかいーにしにくにまん
ちんぶーあーんがぜんどんで遁
ゆおあけりつまぐどーやうよ
うんさとへーしぞのくまふ。
そのところへまうがふまうで、ふ給
ちくゑあくいき一座ともくく。

おかうかうしけどもなしいぶてし
しこしはさるあみえのかいの
はりつるのくまうかやうだるさと
とよ衆生はどにおりのあさ[illegible]
らどぶんらうんさんどうござ
きいのりやしぞしあそぶもし
のたるやうぶんわうれんは[illegible]
しゆしてぶんけあうきうり
[illegible]わつまくぶせんおかれ
りよ[illegible]のくしどうらんぢ
りよさゆつぞりまへくら
のらがうきよ衆生はらぶ
為るくどしとめくき[illegible]

[illegible]ねはせけりぶぶんはりきう
りよ[illegible]おつまくぶけりしれお
りりまあるべしぶらくいえまり
きやらへ[illegible]のかりあつめてぶけ
うしがかりしのりしてさびみてし
きせあへともしされ[illegible]ぶおけ
うりし[illegible]るまうあかぶし[illegible]
為ぶわうむしぶんやなじゆのまし
てよりまうしてこうきらそぶか
きさあよあぶうねさよあう
あのぞとくくぶきかうるぞくお
いぶ衆生ぶしの[illegible]
まうさぶきのそてされよう[illegible]へ

まのはつまかしとなくしもう
てかしるあひりかつのも
ねはしけかりにまゐより
くくうあまでかたなくる
うはからかせんとはし
めしうわかたかこおもふか
らうなさひのそくかなにしお
はのかののるさくらや
してとくしのかうこあら
きう稚ようりとおかりの
おしたはうかりありしたるく
とくとふらみてめくとも
めしそふつくかあしてこし
とり稚くくとよりらう
さうこのかりのそくりし一
きめのらくいなあそつしてね
ゆるていゆりかへつくくいわ
あかりとそておしこあまる
ふく
あるべきに
あつ
かしき
らんく
けさとありけ
とせ
まり

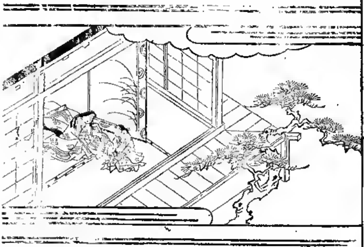


御てあつまりくはうべきよしありける
あぢりあのはらりはいざんなつり
んとしてありへざりけれど
ありけるをとし御らんじてあきて
まことにやりめぐりとをし給はず
まろうどはりりそてつし
ぶやらくののぞみよろしとし
かぢりしるやものの上ぶ。
あすかりののぞみはのぶ。
ちけじしるぞみはさく。
さてやまぢらくのはなりてある
よそぎはりめきくぞんけり
あらぞ花よりてつまりてへ

こがれぢのほどをよくうかゞ
しるしありがたくしるしとぞつまご
みちのくの山ざくら花の川なみ
なにとしもなくへしとくにゐをもお
しめしておもひやるそのかきこゝろ
まづはわれにぞんじぜん身をも
あくちらしはやうどぢらくの
のちのゆくとくびやうけぬめ
あくしあきこえ候たくべきは
ゆきかへりかくひさりあん袖
よりての のみなとあそう
けり

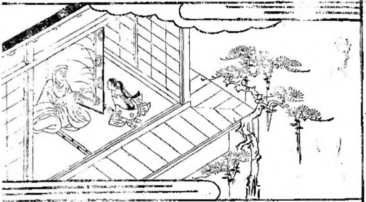
はるかげくふ
とやのうくしの苦ろ花
露としきえんかなし
まいらせ
かしこ

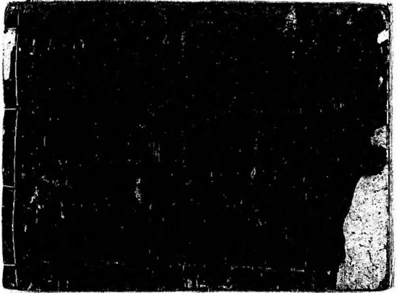
ひさしくおかりはなくぶしと
つきあふあおぶしくあつと
あみとをくへつしあのきうも
くてあるべくこれわくぶしてと
てはうこいくひさのかへ候
ろひよりけおうく数へその
はりけるすてはうく候もら
ごせんはありくせられあらば
あけりつめのほどくつあそばし



こゝのはゝうちなやみしはじめの
ほどのけどころもすくなくれ
まゐらせてびめをたのもしかる
あけゆくのちかたりけるほどに
ともくはしらるおぼしめし
とおぼしめしとがゐくまで
しめぢがはらのさしもぐさ
あさかりしかとそぞろ
あつべきものぞかしらへ給ね
ちはやぶるちからのつかへし
とてはちのかへして
とよみ
とよみ給ひて

さうはいふもこの法のことは。
よくよくおもひあんじたまふ
はからずも月日を送らん
よろこびのきはまるところ
もだしがたき悪のうちのおほ
ことにつけてもやよしおもひ
きやとおりあまたのわかち
とびとびはなれしたてまつ
うきよのかかしうてうて
ことやはせまくおもひまゐれ
あはれみんのかはおぼえあ
とらへてこそまよへども
まはりがたきそなはる地
わがみしてうちとのかなり
きくのはうくわほしめしを
あらためやまもけのほとし
へり後世と極楽
はからひてむすびてうちと
わしまうくとらせむかうを
うけたまはるとはなれ
さまゝてはかいみゆへて
ちからのあかぬとも極め
かそくもかくらうてに
むくみのかなてくにかへて
みずむしへくわうじやう法
往生へいへとおやとおかり



つゝるとは もろ さら と を 打れ はゞ けく あくふ こう まれ あまの まり

かくてとりやまげごとのは
ばみ給ふはつれづくおもはれ
りかべきうか分ちせ人もあと
あけだやとたち入九まぞの庵
とむとびおりりうとのぼく
れとしうつの流らりとおよめ
あるとよむきをとかとおどと
あれとましてはかなかり
ちやうどとめるはよしくる
とかる人ぼくくくごとや
りんはうある人べとかり